広報 中部の森林（もり）

写真：夏を待つ奥穂高岳（中部森林管理局職員撮影）

私の森語り「山と街をつなぐ」
岸田木材株式会社　専務取締役　岸田 真志

各地からの便り
・クリーン活動、鳥獣保護等講習会　ほか

シリーズ
・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

国民の森林・国有林
林野庁中部森林管理局

2024/No.244

今年も国有林クリーン活動実施

【飛騨森林管理署】

五月三十日、今年も高山市清見町を通る県道九〇号線（愛称：飛騨卯の花街道）沿いの彦谷国有林の林道、国道一五八号線沿いに隣接する上小鳥国有林の二か所においてクリーン活動（ゴミ拾い）を実施しました。

当日は天候にも恵まれ、少し汗ばむくらい陽気のなか、当署の職員に加え、名古屋林業土木協会及び名古屋造林素材生産事業協会の会員など四十六名が参加し、ゴミの収集作業に汗を流しました。

彦谷国有林内の林道に隣接する県道九〇号線は、東海北陸道飛騨清見インターから飛騨市へ抜けるバイパスとなっており、山間地にもかかわらず交通量が多く、この付近が休憩ポイントとなっているせいか、空き缶やペットボトル、お菓子の包装紙などのポイ捨てゴミがいたるところに落ちていましたが皆で協力して収集しました。

上小鳥国有林に接する国道一五八号線は、高山市街地から白川郷や郡上市へ至る主要道のため交通量が多い場所です。こちらもポイ捨てゴミが多いのではないかと思われましたが、待避所付近には物干しピンチや衣類用洗剤容器など明らかに家庭から出るようなゴミが捨てられていました。

両箇所とも見通しのよい道路沿いのため、速度を出して通過する車両が多い中での作業でしたが、怪我等もなく作業を終えることができました。

県道沿いの国有林（林道）で活動する様子

収集したゴミは職員により分別したあと、市内の資源リサイクルセンターに運び込みました。計測されたゴミの量は約五〇kgで昨年度と同程度でしたが、粗大ごみが含まれていた昨年度と違い、一般ゴミ主体でこれだけの量となったのは、捨てられたゴミが減っていないことを物語っている結果ともいえます。対症療法としてのゴミ拾いだけでなく、関係機関と連携しながら、マナー向上等の対策を検討していく必要があります。

収集されたゴミの一部

新型コロナウイルス感染症収束後、古い街並みや白川郷などを目指して、飛騨地域においても訪日外国人を含めた観光客が増えています。観光地だけでなく、そこへ至るまでの車窓からもゴミのない美しい景観を楽しめるよう、今後も継続して実施していきます。

活動終了後の集合写真

定光寺（じょうこうじ）530運動の実施

【愛知森林管理事務所】

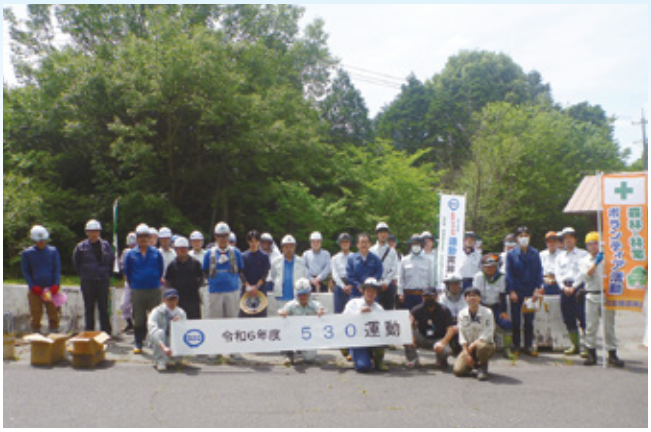
五月三十日のゴミゼロの日に併せ、愛知県瀬戸（せと）市にある瀬戸国有林内の定光寺自然休養林森林交流館周辺道路にて、ゴミゼロ運動を実施しました。

ゴミ拾いは、当所職員十五名のほか、瀬戸市や関係する事業体等の職員を含め総勢四十二名が参加しました。

作業開始前に所長から、「一生懸命ゴミ拾いをしようとしても、紙屑一つ拾集できないようになることが理想です。我々が多くのゴミを拾集できることは、良いことではなく、ゴミを捨てても片付けてもらえると思われないように働きかけていくことが運動の趣旨です。そう願いつつ頑張りましょう。」との挨拶があり、午前中の1時間半程の作業に汗を流しました。

以前に比べると拾集したゴミの量は少なめでしたが、それでもおよそトラック二台分になりました。空き缶やペットボトルはもとより、タイヤ、バンパー、家具、塗料缶などの街中で収集されにくいものが含まれており、このようなゴミが都市近郊に位置している国有林に不法投棄される傾向に変わりはありませんでした。

午後からは、名古屋造林素材生産事業協会愛知支部及び名古屋林業土木協会愛知支部傘下の会員によるボランティア活動の一環として、森林交流館周辺の草刈り作業を実施していただきゴミゼロの日を終えました。



作業開始前の集合写真

「ごみゼロの日」に金華山（きんかざん）の清掃活動を実施

【岐阜森林管理署】

五月三十日、金華山国有林において、「国有林ゴミゼロ運動」として金華山ドライブウェイ周辺の清掃活動を行いました。

当日は好天に恵まれ、岐阜市をはじめ地域のボランティア団体や森林・林業関係団体など、総勢六十一名が四班に分かれ、金華山ドライブウェイの入口から展望台、岩戸公園までの約五キロメートルを歩きながら空き缶、ペットボトルなどのゴミを拾い、約一時間半で軽トラック約二台分のゴミが集まりました。

金華山国有林は、岐阜城がそびえ、ツブラジイやアラカシなどの照葉樹林に覆われた豊かな自然景観を呈しており、「金華山自然観察教育林」（レクリエーションの森）として、ロープウェイや遊歩道などが整備され、多くの市民や観光客に親しまれています。

金華山を訪れる人たちが気持ちよくハイキングや自然観察等を楽しんでいただけるよう本活動を継続しながら、ごみの持ち帰りをはじめとする自然環境保全について、啓発活動を行っていきます。

集めたごみの回収

作業開始前に参加者全員集合（後方は岐阜市街）

木曽青峰高校 赤沢自然休養林で地域学習

【木曽森林ふれあい推進センター】

五月二十四日、長野県上松町の赤沢自然休養林において、木曽青峰高校の一年生八十五名が、地域学習の一環として三年ぶりに遊歩道の整備と「学術研究コース」の見学を行いました。

遊歩道の整備は、木曽ヒノキの根が網状に延びる様子が観察できる向山コースで行いました。ヒノキの根は浅く横に這う性質があるため「走り根」と呼ばれています。表土が流れて露出してしまった歩道上の走り根を保護するために、ヒノキの間伐材等を細かく砕いたチップ材を撒く作業を行いました。生徒たちは協力しながらスコップで手提げ袋にチップを詰め、遊歩道を何度も往復して作業に汗を流しました。

「学術研究コース」は、普段一般の方が立ち入ることができない区域内にあるため、当センターと木曽森林管理署職員の案内で林内を進みました。樹齢約三百年以上の木曽ヒノキなどが立ち並ぶコースを巡りながら、赤沢自然休養林を含む世界的にも貴重な温帯性針葉樹林の「木曽悠久の森」の成り立ちなど地域の自然環境について学び、森林の空気を十分浴びて本学習会を終えました。

今年の赤沢自然休養林の開園は、十一月七日までの予定です。森林浴発祥の地である当園で、心身ともにリフレッシュされてはいかがですか。

チップ撒きをする生徒たち

「国民の森」の見学会を実施

【木曽森林管理署】

六月一日、御岳国有林（長野県王滝村）にて、王滝村公民館主催による、「国民の森」の見学会が実施されました。

「国民の森」は、昭和五十九年の長野県西部地震に伴う大崩壊「御岳崩れ」により発生した大量の土石流が濁川を埋め尽くした跡地に、中日新聞社やボランティアの協力により造成された森林です。

本見学会は、地震による犠牲者の追悼の場であり、災害について学び伝えていく地域活動の拠点となっている柳ヶ瀬鎮め観音の清掃活動と併せて行われました。

柳ヶ瀬鎮め観音の清掃活動

王滝村の住民約二十名で清掃活動の後、「国民の森」、「御岳崩れ」の跡地、濁川における復旧治山工事現場を一望できる幕岩展望台に移動し、当署職員が土石流による森林被害の大きさ、「国民の森」の造成、復旧治山工事などについて説明しました。

今年は、長野県西部地震の発生から四十年を迎えました。見学会を通じて、地元の方々に本災害による被害状況やその後の経過、取組について知っていただくよい機会になりました。

幕岩展望台での当署職員による説明

「八ヶ岳開山祭」七十周年の節目

【南信森林管理署】

六月二日、八ヶ岳連峰の夏山シーズン到来を告げる恒例の開山祭が行われ、雨天の下、登山者や山小屋関係者等が、南八ヶ岳会場（行者小屋）に約七十名、北八ヶ岳会場（北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅）に約五十名集まり、今年の登山の安全を祈願しました。

南八ヶ岳会場では、午前中は薄日が差すときもありましたが、開山祭開催時刻が近づくにつれ、次第に雨足が強くなり気温も下がってきたため、登山者へも配慮し、開催時刻を早めるなどの調整が行われました。

来賓として出席した当署署長からは、開山祭開催に対する祝辞とともに、当署が取り組んでいるシカ被害対策や、高山植生の復元、森林パトロールによる清掃活動などにおいて、地元自治体、登山者、ボランティアに協力いただいていることへの謝意を述べました。

最後に、遭難事故者への追悼のことば、献花、黙祷が捧げられた後、雪山讃歌の合唱が行われ、無事終了となりました。八ヶ岳一帯は国定公園に指定されており、首都圏からのアクセスも良好で、老若男女問わず楽しめる多様な登山ルートがあることから、例年多くの登山者が訪れます。新型コロナウイルス感染症の分類が見直され、今後はより多くの利用が見込まれる一方、遭難事故の増加も懸念されます。

当署としては、山小屋関係者や地域の観光関係者の方々と連携し、高山植物保護のためのロープや指導標の設置など、山岳遭難のリスクを低減させる取組を推進していくとともに、八ヶ岳の豊かな自然環境の保全に引き続き取り組んでまいります。

行者小屋から望む赤岳

八ヶ岳連峰は貴重な森林生態系が維持されている地域であり、国有林に隣接する山梨県有林及び長野県内の民有林との間で協力して保全に努めることにより、野生動植物の移動経路の確保などを進める「緑の回廊」となっています。

開山祭に参加した登山者や関係者の方々

木工クラフトイベントで木材の良さをアピール

【資源活用課・技術普及課・北信森林管理署】

六月八日、長野市役所西側広場（桜スクエア）において、木材の良さを体験してもらう「桜スクエア森林フェア」が開催され、中部森林管理局では、木材や木の実を用いたクラフト体験ができるブースを出店しました。

このイベントは、日本木材青壮年団体連合会全国大会の開催に併せて実施され、長野県や長野森林組合など関連する複数の機関・団体が参加しました。森林管理局・署の丸太切りと木工クラフト体験のブースへは、二〇〇名以上の親子が訪れ大盛況でした。丸太切りでは、管内の国有林で伐採されたヒノキやミズメ、カンバ等を用意し、子どもたちはノコギリを用いて、苦労しながら好みの長さに切っていました。切った後には樹種ごとの色や香りの違いに驚く様子も見られました。木工クラフトでは、枝や輪切りの木、松ぼっくり、どんぐりなどを組み合わせ、置物、ネームプレートなど様々な作品を作り上げました。材料の選び方や配置など、子どもたちのアイディアに驚かされる場面も多くありました。製作中にマツの種子や樹種の違いを説明すると、親子の間で「知らなかったね」「すごいね」という会話も聞かれ、木材や木の実に興味を持ってもらえたのではないかと思います。

今後も各種イベント等を通じ、森の恵みや木の温もりを伝え、木材利用につなげていく活動に取り組んでまいります。

木工クラフト体験で賑わうブース内

実践を交えた「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催

【愛知森林管理事務所】

六月十九日、有害鳥獣捕獲及び狩猟に関する講習会を開催し、職員十六名が参加しました。

当所管内の段戸国有林（設楽町）ではニホンジカによる植栽木の被害が発生しており、防護柵設置やくくりわなによる捕獲に取り組んでいますが、生息数の増加による被害区域の拡大等が想定されるため、初心者でも簡単に効率よく捕獲できる「小林式誘引捕獲法」の設置方法や効果を職員が実際に体験し、その普及等に役立てようとするものです。

午前中は、愛知県東三河総局から講師を迎え、鳥獣保護管理の概要や有害鳥獣の特性、続いて当所担当職員から捕獲における安全対策の指導を受けた後、意見交換を行いました。

午後は、段戸国有林で、捕獲経験者が指導役となって、わな設置の現地実習を行いました。その際、会場近くに設置しておいたわなにシカが捕獲されていたため、当初の予定にはなかった止め刺し（殺処分）の実演を行うなどして、緊張感漂う実践的な講習会となりました。

シカ被害を減少させるため、当所では、今後も自治体や関係者との連携を進め、要請があればいつでも捕獲の現地検討会や説明会の開催などに協力してまいります。

わな設置の実技講習の様子

「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催

【岐阜森林管理署】

六月五日、下呂市農村活性化施設「きこりセンター」において、「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催しました。

当署管内では、ニホンジカの生息域は拡大傾向にあり、森林被害対策を着実に進めることが必要となっており、くくりわなの貸出、委託事業による捕獲などを行っています。

本講習会は、鳥獣保護や狩猟に関する知識と技術の向上を図ることを目的として毎年行っており、当署のほか、飛騨署、東濃署、森林・技術支援センター、更には関係市町村の担当職員も参加し、総勢四十七名が受講しました。森林管理署等に勤務する職員は、本講習を受けることにより、国有林内に限り、わなによる有害鳥獣の捕獲が可能になります。

午前の部では、岐阜県の鳥獣保護行政の担当職員から関連法令をはじめ、県内に生息するシカの個体数・分布域の推移や被害の現状に関する講義を受けました。午後の部は、わなによる捕獲に精通し猟友会の会員でもある当署職員が、わなの種類と特徴、設置・捕獲時の留意事項等について、実演を交えながら講習を行い、参加者は興味深く耳を傾けていました。

法令等についての講義

くくりわな設置の実技講習は室内で行いましたが、土や枝葉などを使用して現場に近い状態に再現して設置し、シカの足に見立てた棒を使用して、受講者はわなの作動を体験しました。

今回の講習会で得られた知見・ノウハウを活かしながら、引き続き、自治体や関係機関などと連携したシカ被害対策を進めてまいります。

くくりわなの設置体験

〈中部森林管理局のシカ被害対策は「攻め」と「守り」の2本立て〉

〈攻めの対策〉

シカ捕獲にあたり、事業者への委託や猟友会等へのわな貸出しなど地域ぐるみの取組や、高い捕獲効率が期待できる「小林式誘引捕獲法」の普及に努めるほか、わな設置後の見回り負担を軽減できる「捕獲通知システム」の導入に取り組んでいます。

〈守りの対策〉

シカによる苗木の食害が懸念される地域では、新植地の周囲への防護柵設置や忌避剤散布を実施しています。このほか、希少な高山植物等を保護する観点から、状況に応じて防護柵を設置しています。

林地保全に配慮した作業道の現地検討会

【飛騨森林管理署】

六月十三日に、岐阜県高山市の民有林に作設されている屋根型作業道（欧州型）の現地検討会を実施し、飛騨森林管理署・岐阜森林管理署・森林技術・支援センター職員十四名が参加しました。

林野庁では、林業の様々な課題を抜本的に改善していくため、新技術を活用して、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を展開することとしています。国有林においても積極的に取り組むため、今回の検討会を企画しました。

この屋根型作業道は、欧州での事例を参考に林業専用道規格で作設された安価で丈夫な作業道であり、あわせて、林地保全や生態系に配慮した構造となっているため、持続可能な森林経営につながると考えられています。この技術については、高山市の（株）長瀬土建から、昨年度中部森林管理局で実施した森林土木分野における工事等の省力化・効率化を目的とした「新技術・新工法」技術プレゼンテーションでも紹介されています。

屋根型作業道の説明を聞く参加者

同社の長瀬社長から、「作業道が壊れる原因のほとんどは水であり、水をいかに制御・処理するかがポイントになること、屋根型作業道は水を大量に集めず、流れるスピードを落とす構造となり、降雨の際は、雨水が路面の横方向に流れ、路面縦方向の浸食抑制効果がある」といった説明を受けました。現地の作業道は、九年の間、側溝の土砂を除いたり、枝や石を拾う以外のメンテナンスは行われていませんでしたが、路盤はほとんど洗掘されていない状況でした。

作設済みの屋根型作業道の現状を説明

検討会に参加した各署の担当者からは、屋根型作業道の路盤の構造や排水方法、施工の方法やコストなどに多くの質問があり、また、国有林内の林道との違いを確認していました。

今回の検討会を踏まえ、林地保全に配慮した路網整備の推進、事業体への技術指導につなげるとともに、今後も様々な課題解決や新しい林業を推進するため、知識や技術の習得に取り組んでまいります。

従来の構造の作業道

路盤を流れた水は排水溝で排水

屋根型構造の作業道

屋根型構造で両側に排水

作業道の排水比較状況

「新技術・新工法」技術プレゼンテーションはこちらから ↓

「選ばれる森林土木」キャラバン

【治山課・森林整備課】

六月二十四日、全国キャラバンの一環として林野庁本庁より中部森林管理局に担当者が来局し、事業者及び局署職員を対象に「選ばれる森林土木」と題して、森林土木事業における適切な発注事務に関する説明会を行いました。

国有林における治山・林道事業は、市街地やその周辺で行われる工事と比較して、作業現場まで遠く、そこへ至る道路は未舗装であり、現地は急傾斜地で作業環境が厳しいというケースが大半です。このため、技術者・作業員の確保が困難となっているほか、労働時間短縮への大きな流れの中で、一日あたりの作業時間を確保しにくい条件下では、事業経営の観点からも敬遠される傾向が見られます。

こうした現状を踏まえ、林野庁では工事受注者の協力を得て、実際の工事に基づく経費や生産性向上に向けた取組の状況、ＩＣＴを活用した工事の取組事例などの情報収集を行い、森林土木工事費用の積算方法等について、断続的に改善を進めてきました。各森林管理局では、こうした取組の普及啓発や推進を図るため、令和四年度から説明会を実施しており、今回はＷｅｂ参加を含め、約一三〇名が出席しました。

説明会会場の様子

説明会では、最初に林野庁本庁より、令和六年度から実施される積算等に関わる改善の取組についての説明があり、次に週休二日や熱中症対策、ＩＣＴ活用工事の取組などについて、各局別の令和五年度実績と事例が示されました。

その後、建設機械の製作事業者から、林道工事の測量を事例として、ＩＣＴ建設機械を活用することにより期待できる効果について具体的な説明が行われました。ＩＣＴの活用と言えば費用のかかる大がかりな建設機械を導入するイメージがある中、測量作業に活用することにより、あまりコストをかけることなくシンプルに省力化や安全性の向上が図られることが紹介されました。

意見交換の場では、森林土木事業者から、積算方法の継続的な見直しに対する好評価が示された一方、未だに手作業による積算が行われていることや、現地の状況を十分に反映できていないと感じる積算が見られるなどの意見が出されました。このほか、ＩＣＴ施工に不可欠なソフト導入に対する補助、国有林における導入事例の詳細説明を求める要望などもありました。

挨拶を行う本庁担当官

中部局においては、本庁と連携しながら、引き続き現地の状況を適切に反映した積算に努めるとともに、ＩＣＴの導入を積極的に進め、技術者不足や労働時間短縮の流れに対応した「選ばれる森林土木」を目指して取り組んでまいります。

シリーズ

「私の森語（もりかた）り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「山と街をつなぐ」

岸田木材株式会社
専務取締役
岸田　真志（まさし）

■自己紹介

大学卒業後、大手建設会社に入社し、東京や北海道で総務や営業の経験を積みました。二〇一八年、子どもの小学校入学を機に同社に入社し、現在は専務として営業だけでなく新規事業開発にも携わっています。

■活動内容

当社の本業は製材業ですが、近年、『山と街をつなぐ』取組みを進めています。

製材の現場では日々規格外の木材製品が発生します。〇を□にするのに製品に丸みがついているとNG、節があるからダメ、既定の数量でないと売れない…。でも、その価値観はこれまでの商慣習に縛られているだけで、規格からはじかれた製品であっても、使い方次第ではまだまだ役に立つのではと考え、商店街の空き店舗を活用して木材の端材のアウトレットショップ「ヒミ ブリコ ラボ」を二〇二二年八月に開設しました。スギやヒノキ、カシなどの端材を販売し、DIY需要を見込んだワークショップも開催しています。

また、軽トラの荷台に搭載可能な「ひみ里山杉」で作ったサウナを制作し、屋外サウナの体験イベントにも出店するなど、見る人がわくわく楽しくなるような活動もしています。

ヒミ ブリコ ラボ

軽トラサウナ

さらに、「ひみ里山杉」のストローや樹皮を原料にしたインク、チップを原材料に使用したビールの開発にも取り組んでいます。インクとブリコラボの取組みは二〇二二年のウッドデザイン賞にも選出され、それなりに面白がってくれる人もいるのだなと感じています。木材がもっとみんなの生活に当たり前に溶け込んでいる社会となるよう、もっと身近に感じてもらい、里山の保全と持続可能な社会になることを目指していきたいです。

「ウッドデザイン賞2022」を受賞した
「ひみ里山杉からできたインク」
京都の文具メーカーとのコラボ

■メッセージ

岸田木材株式会社は、地元の資源を活用し、地域と共に歩む企業として、持続可能な地球環境と健康で幸福な社会を目指しています。「ひみ里山杉」を通じて木の魅力を広く伝え、これからも新たな価値を創造していきます。

北陸3県（石川・富山・福井）の
県産材活用連携事業「キノワホクリク」による
クラフトビール「すぎのわ」

■連絡先

富山県氷見市
十二町万尾前二四七―一
岸田木材株式会社
https://kishidamokuzai.co.jp/

シリーズ
中部の保護林（第39回）

ヒメコマツの希少な群落を有する天然林

小菅山（こすげやま）ヒメコマツ希少個体群保護林

設定目的

長野県北部にある小菅山（こすげやま）（一、〇四六メートル）の岩石地帯において、通常単木的に自生するヒメコマツがまとまって自生している希少な群落が見られ、この個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、小菅山の西側斜面の標高八四〇～一、〇四六メートルに位置しており、林齢約三百年のヒメコマツやブナを主体とする天然林等で構成されています。周囲のブナと比べてヒメコマツの樹高は高く、遠望によって確認することができます。

所在地
長野県 飯山市

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課　ダイヤルイン：026-236-2612

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第39回

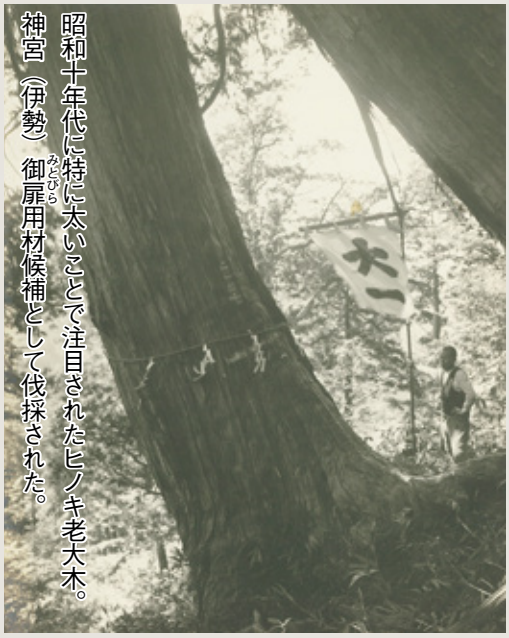
中部森林管理局総務課
井上日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曽」その三
大ひのき

江戸前期より強度の伐採が行われた木曽地域に対して、比較的森林資源が残されていた裏木曽は大材の産地として知られていくことになりますが、かつてどれ程の巨木が存在したのかは今となっては推測するしかありません。

江戸時代後期の江戸城西の丸再建のための



昭和十年代に特に太いことで注目されたヒノキ老大木。神宮（伊勢）御扉用材候補として伐採された。

出ノ小路（現在の東濃森林管理署加子母裏木曽国有林）での大材伐出（第三十八回参照）の際には「カナテコ」と呼ばれていた樹齢千年以上の伝説的なヒノキ巨木が伐採されています。この「カナテコ」、昭和三十年代に国宝姫路城の「心柱」修理用材として加子母裏木曽国有林で伐採されたヒノキ巨木、そして後述する「大ひのき」が記録上残っている特に大きな巨木とされます。

「大ひのき」は江戸時代後期には既に出ノ小路で神木、木曽山随一の巨木と知られていたヒノキであり、樹高二十間（約三六メートル）、目通り（地上一・二メートルの高さ）の周囲長二十三尺（約七メートル）と記録されています。裏木曽を代表する巨木でしたが、昭和九年九月に室戸台風による暴風で地上一二メートルで折損してしまいます。その後、完全に枯死してしまい昭和二十九年に伐採されました。なお、昭和五十六年に同じ加子母裏木曽国有林で巨大ヒノキが発見され、以降「二代目大ヒノキ」と呼ばれています。

姫路城「昭和の大修理」の際に、城を支える「心柱」用材として昭和三十四年に伐採されたヒノキ巨木。樹高三五メートル、目通り直径一・二メートルとされる。写真に写っている人物と比較することでその大きさが実感できる。

大正末から昭和初め頃の撮影と思われる「大ひのき」

昭和初め頃の撮影と思われる「大ひのき」

昭和九年の室戸台風で折損した「大ひのき」

これらの巨木がいずれも加子母裏木曽国有林（出ノ小路）に存在していた訳ですから、まさに「巨木の森」と呼んでよろしいかもしれません。こうした大木が多い特異な森林が形成されたのは、急斜面であり伐採・搬出が困難であったこと、風当りが弱い地形であること、気候・地質がヒノキ・サワラの生育に適していたこと、江戸時代以降の尾張藩・地元での保護管理が適切であったことなどが理由として考えられています。

官服を着た職員と対比して木のサイズがうかがえる

昭和初め頃の「出ノ小路神宮備林」（現在の東濃森林管理署加子母裏木曽国有林）。帝室林野局でも有数の大材林として名をはせた。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【飛騨森林管理署
荘川（しょうかわ）森林事務所】
首席森林官　岩下伸也

荘川森林事務所は、飛騨森林管理署のある高山市街地から西へ、車で一時間ほどの高山市荘川町にあります。町の標高は約八〇〇メートルほどで、最高気温が三〇度を超える日でも朝晩は涼しく過ごしやすい場所です。町の中心部には清流庄川が流れ、川底が見えるほど透き通った水は、地域の田畑を潤し、町の北に位置する日本屈指のロックフィルムダムである御母衣（みほろ）ダムを満たし、いくつもの支流と合流して富山湾へ注ぎます。

日本屈指のロックフィルダム御母衣ダム

当事務所は、庄川の源流部に広がる森林を管轄しており、管轄面積は約一五、六九〇ヘクタール、スギ、ヒノキ、カラマツなどの人工林約六割とブナやミズナラなどの天然林約四割で構成されています。

当事務所が管理する国有林では、伐採から造林、保育に至る施業を実施しており、事業を実行する請負業者への監督業務が森林官の大きな仕事の一つです。また、間伐する立木を調査する収穫調査や、民有地と国有地の境界の確認、国有林野の貸付業務など多岐にわたり、これらを非常勤職員との二名で行っています。

私は今年度、初めて森林官となり、先輩方の作ってきた森林や地域との関係を引き継ぎ、日々の業務を進めています。森林官は、森林や現場を直接目で見て確認し、考えることが最も大事だと考え、造林や木材生産の事業が始まってからは、勤務のおよそ七割を現場へ行くことに充てています。現場を見る度に様々な発見があり、将来、価値のある森林にするため、どのような事に注意して管理すれば良いか、請負業者にどのように指示すべきかなど、悩み考えながら仕事をしています。

管内の国有林は携帯の電波が届かない場所が大半で、未舗装の林道を一時間以上走行してようやく到着する現地もあり、出発前の車両の点検や適切な服装、衛星電話や飲み物の準備は安全確保のため欠かせません。現場に行く途中では岩魚（いわな）が泳ぐ沢の透き通った流れ、林道沿いに咲く花々や、日々変化する木々の葉の素晴らしさに時間を忘れそうになります。こうした環境や様々な経験ができる森林官の仕事を任されたことに感謝し、日々、山の事を考えています。

■未来の担い手へのメッセージ

五〇年前、一〇〇年前に植えられた木が伐採されて木材となり、あなたの家の柱や机、椅子など様々な木製品に生まれ変わり将来に残っていきます。伐採された土地には、新たに小さな苗木が植えられ、次の伐採まで何代もの職員が携わり、管理が継続されていきます。国有林の仕事は、森林官のように直接森林に携われる業務だけではありません。しかし、国有林の仕事はすべて、人の一生よりも長い期間を見据えて結果を出すという壮大なドラマに繋がっています。それを素晴らしいと感じてくれたのなら、ぜひこの職場へお越しください。

事務所前で筆者（左）と非常勤職員

国有林モニターのご紹介

中山　絵美子
（愛知県）

◇自己PR：（趣味や特技など）

好きな事はテニスとフラワーアレンジメント。最近始めた茶道や手話の勉強に悪戦苦闘中。

◇国有林モニターに応募した理由

幼い頃、父の実家近くの東金ダム（千葉県）へ遊びに行きダム好きに。高じて、独立行政法人水資源機構が募集する広報誌モニターの研修として豊川の牟呂松原頭首工を見学したり、東海農政局が募集する木曽川の犬山頭首工見学会に参加する中で、水を守るのは樹木であると気づき、国有林モニターにならせて頂きました。

◇国有林に期待すること

生物多様性の保全はもとより土砂災害の多い昨今、土壌保全の縁の下の力持ちに。

（写真：牟呂松原頭首工にて）

※「頭首工」とは、主に農業用水などを河川から取り込むため、川の流れをせき止めて用水路に引き入れるための水門や堰堤などの施設で、用水路の頭の部分にあることからこのように呼ばれています。

中部森林管理局では、管内（富山県、長野県、岐阜県、愛知県）にお住まいの方を対象として、国有林が果たしている役割や現状をご理解いただくとともに、国有林に対するご意見等を直接伺い、今後の管理経営に役立てていく「国有林モニター」の取組を行っています。令和６・７年度の国有林モニターの皆さまからお寄せいただいた投稿について掲載してまいります。

グリーンサポートスタッフ（GSS）活動がシーズンを迎えます

中部森林管理局では、春から秋までの登山者が増える時期にあわせて、登山利用の集中化等に伴う植生荒廃等を防止するため、「森林保護員（グリーンサポートスタッフ「通称：GSS」）を雇用し、人々が多く訪れる山岳地帯において巡視やマナーの啓発活動を行い、貴重な森林生態系の保全に取り組んでいます。

これから本格的な夏山シーズンを迎える中、北アルプス、戸隠・黒姫、カヤの平、上高地、美ケ原、乗鞍、中央アルプス、万波、天生、金華山の各地区で活躍されるグリーンサポートスタッフの活動の様子がHPへ掲載されますので、どうぞご覧ください。

GSSの活動報告は
こちらから
↓

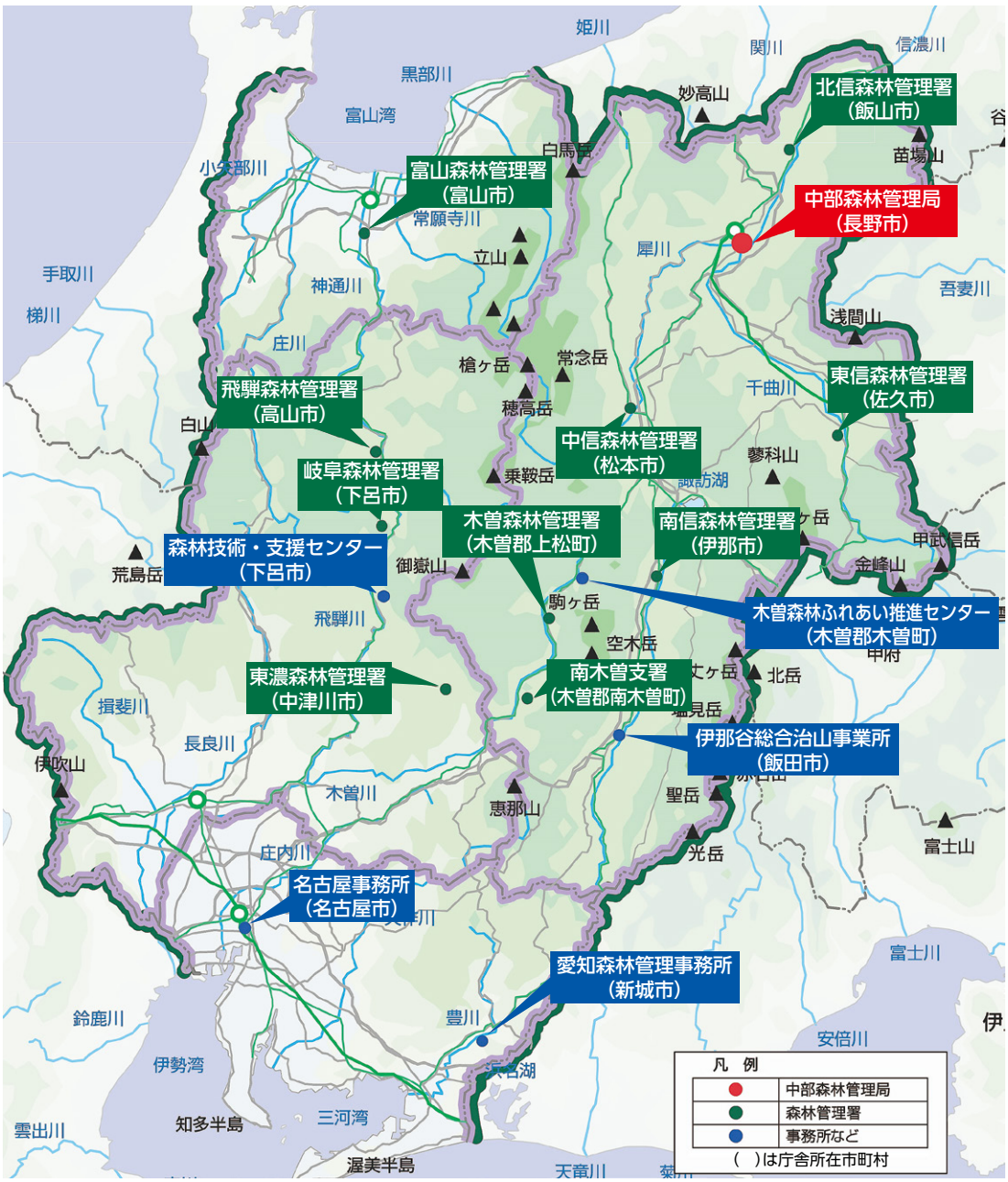
編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、**migoro@maff.go.jp** まで電子メールでお送りください。）

♪富士は日本一の山～。７月から富士登山のルールが大きく変わり、最も利用者の多い山梨県側の「吉田ルート」５合目にゲートが設置されました。１日の登山者を最大4,000人として通行料2,000円を徴収し、「弾丸登山」対策として午後４時から午前３時の通行が制限されます。4,000人のうち3,000人分はネット予約枠で、海外からの登山者などにも対応しています。

今からン十年前の富士山では海外の方と出会った記憶はなく、自転車(ロードバイク)を担いで頂上を目指す男性を覚えています。山小屋は満員で横向きに寝るだけでした。山頂からの景色はもちろんよかったのですが、翌日にレンタサイクルで富士五湖周辺をめぐり、なだらかで美しいすそ野を見ながら、富士山は登るよりふもとから眺めるものだなぁと感じたのです。山頂まで歩いたからこその実感だったと思います。遠～い過去の話です。

「日本の屋根」と言われる北アルプス、南アルプス、中央アルプスには、この夏も多くの登山者が訪れることでしょう。初心者から上級者まで様々だと思いますが、事前準備を入念に行い、体力を過信せず、時には引き返す勇気も大切になります。そして、標準装備品に「携帯トイレ」を加えたうえで目的地までの行程を楽しみましょう。



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。

中部森林管理局
ホームページ

広報
「中部の森林」

用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月 10 日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。